

規制改革会議 貿易・投資等ワーキング・グループ ご説明資料

国土交通省 航空局
平成25年10月29日

羽田空港の発着枠に関する 規制値について

【これまでの経緯】

- D滑走路の増設、地元合意、管制官及びパイロットの慣熟を踏まえ、昼間時間帯の1時間当たり発着回数は、2010年10月の合計63回から2013年3月には合計74回に増加。
- 加えて、予定されていた国際線ターミナルの増設が完了することにより、2014年3月より、昼間時間帯の国際線発着枠が1時間当たり6回増加(→1時間あたり合計80回に)。

【2014年夏ダイヤにおける発着調整基準】

昼間時間帯の 発着回数の上限值	2013年夏ダイヤ	2014年夏ダイヤ(2014年3月30日～)
【1時間当たり】 (08:00～21:55)	(出発回数／到着回数) <u>37回 / 37回</u>	(出発回数／到着回数) <u>40回 / 40回</u>
【15分間当たり】	それぞれ10回。 ただし、06:00～07:55の出発、21:00～22:55の到着の上限值は11回(隣接する時間帯を含め連続は不可)	それぞれ <u>11回</u> 。 ただし、 <u>同一時間帯において、出発と到着が同時に最大回数となることは不可。</u>
【5分間当たり】	それぞれ6回(6回の連続は不可)	それぞれ6回(6回の連続は不可)

※2014年夏ダイヤでの改正項目を下線で表示

- 処理容量(処理能力)とは、特定の滑走路、空港、空域において処理可能な航空機の最大数量であり、一定の条件下における計算値(理論値)である。⇒ 処理容量は環境や条件の違いによって変化する
- 滑走路処理容量は、滑走路毎に離着陸機の滑走路占有時間及び大型機の後方乱気流を考慮した安全間隔により算出する。
- 空港処理容量は、滑走路処理容量を基に、滑走路配置、地上施設、空域構成、騒音対応等の制約要因により減じられる。

<空港処理容量イメージ>



現在の羽田空港における制約要因について

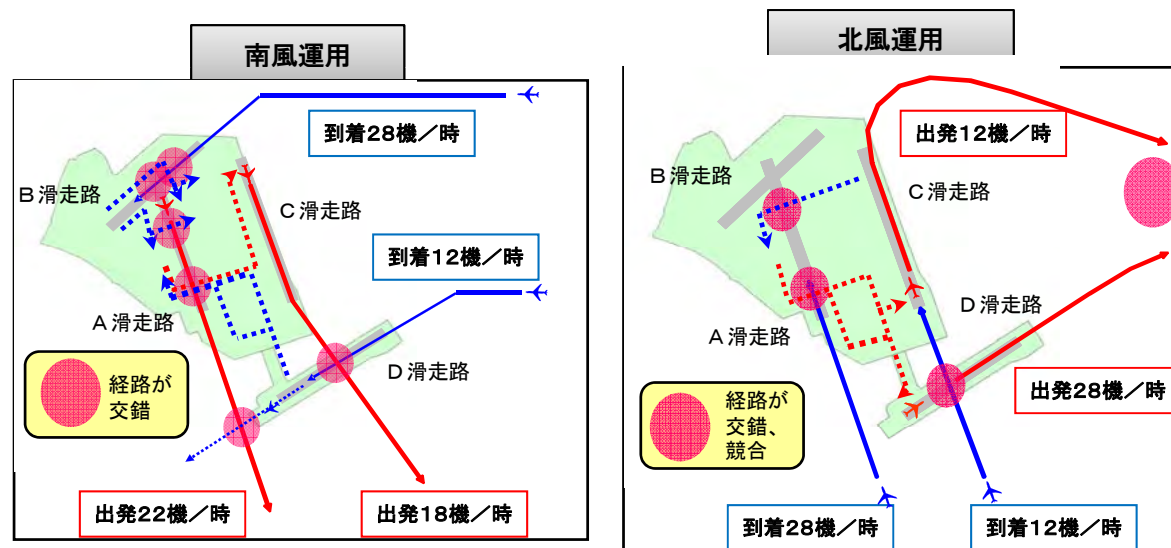
- 4本の滑走路の井桁配置(交差する航空機の安全確保のために間隔を空ける必要)
- 駐機場(到着混雑時に駐機場への待ちが発生)
- 誘導路(離陸滑走路に向かう誘導路が出発機で溢れることにより、他の地上交通の進路を塞いでしまう)
- 複雑な空域構成や騒音影響への配慮のため、狭い東京湾内に飛行経路を設定(出発経路と到着経路の競合)
- 出発・到着経路下の自治体対応のための運航制限



- 制約の改善がないまま規制値を上げると、空中・地上を含め渋滞が発生し、その結果、定時性が失われ、却って処理機数の減少につながり、安全上も問題。

⇒ 規制値の緩和には、関係自治体の合意を含め制約の改善が必要

<羽田空港における運用面でのハザード>



羽田空港の国際線発着枠について

昼間時間帯(6:00～23:00)においては、年間3万回を「近距離アジアビジネス路線」に配分

国・地域	就航都市	外国企業就航状況 (運航便数/日)	本邦企業就航状況 (運航便数/日)
韓国	ソウル(金浦)	大韓航空 (KE)(3)	日本航空 (3) 全日本空輸 (3)
		アジアナ航空 (OZ)(3)	
香港	香港	キャセイパシフィック航空 (CX)(2)	日本航空 (1) 全日本空輸 (1)
台湾	台北(松山)	中華航空 (CI)(2)	日本航空 (2) 全日本空輸 (2)
		長栄航空 (BR)(2)	
中国	北京(首都)	中国国際航空 (CA)(2)	日本航空 (1) 全日本空輸 (1)
	上海(虹橋)	中国東方航空 (MU)(1)	日本航空 (1) 全日本空輸 (1)
	上海(浦東)	上海航空 (FM)(1)	
	広州	2013年夏期スケジュール(2013年3月31日～) より運航できる枠組みとして2012年8月に合意	
4カ国・地域	5都市	8社 16便	16便

深夜・早朝時間帯(22:00~7:00)においては、年間3万回を世界の主要都市との路線に配分

国・地域	就航都市	外国企業就航状況 (運航便数/日)	本邦企業就航状況 (運航便数/日)
韓国	ソウル(仁川)	大韓航空 (KE)(1)	
		アジアナ航空 (OZ)(1)	
香港			
台湾			
中国			
タイ	バンコク	タイ国際航空 (TG)(1)	日本航空 (1)、全日本空輸 (1)
マレーシア	クアラルンプール	エアアジアX (D7)(1)	
シンガポール	シンガポール	シンガポール航空 (SQ)(2)	日本航空 (1)、全日本空輸 (1)
米国	ニューヨーク(JFK)	アメリカン航空 (AA)(1)	日本航空 (2)
	ロサンゼルス	デルタ航空 (DL)(1)	サンフランシスコ、ホノルル
	シアトル	デルタ航空 (DL)(1)	全日本空輸 (2)
	ホノルル	ハワイアン航空 (HA)(1)	ロサンゼルス、ホノルル
カナダ			
フランス			日本航空 (1) パリ
英国	ロンドン(ヒースロー)	ブリティッシュ・エアウェイズ (BA)(週5便)	
ドイツ			全日本空輸 (1) フランクフルト
オランダ			
ベトナム			
インドネシア	デンパサール	ガルーダ・インドネシア航空 (GA)(1)	
オーストラリア			
ニュージーランド			
アラブ首長国連邦	ドバイ	エミレーツ航空(EK)(1)	
カタール			
19カ国・地域	11都市	11社 13便	7都市 10便

2014年3月末から始まる夏期スケジュールにおいて増加する年間3万回の昼間時間帯発着枠を、アジア長距離路線、欧米路線も含む高需要・ビジネス路線に配分

(※) 国際線増枠：2014年3月30日より実施

国名	合意年月	1日あたりの便数	
		日本側	相手側
英国	2012年 1月	2	2
フランス	2012年 7月	2	2
中国	2012年 8月	2	2
シンガポール	2012年 9月	2	2
タイ	2012年 11月	2	1
ドイツ	2013年 2月	2	2
ベトナム	2013年 6月	1	1
インドネシア	2013年 6月	1	1
フィリピン	2013年 9月	1	1
カナダ	2013年 10月	1	1

成田空港の夜間発着禁止時間帯 について

沿革

- ・ 昭和41年 7月 「新東京国際空港の位置及び規模について」閣議決定
新東京国際空港公団設立
- ・ 昭和53年 5月 開港
- ・ 平成14年 4月 暫定平行滑走路（2,180m）供用開始
- ・ 平成16年 4月 空港民営化
- ・ 平成21年10月 平行滑走路を2,500m化
- ・ 平成22年10月 発着容量30万回（最短で平成26年度中）の地元合意
- ・ 平成25年 3月 オープンスカイの導入
離着陸制限（カーフェュー）の弾力化

- 旅客数：2,612万人
（国内192万人 国際2,419万人）
- 貨物量：193万トン
（国内0.6万トン 国際192.9万トン）
- 年間発着枠：27万回
（2013年夏ダイヤより）

※旅客数、貨物量は平成23年度実績
出典：空港管理状況調書

現況

- 設置管理者：成田国際空港株式会社
（旧：新東京国際空港公団）
- 滑走路：(A)4,000m
(B)2,500m
- 運用時間：24時間
（カーフェュー 23:00～6:00）
- 総面積：1,055ha

